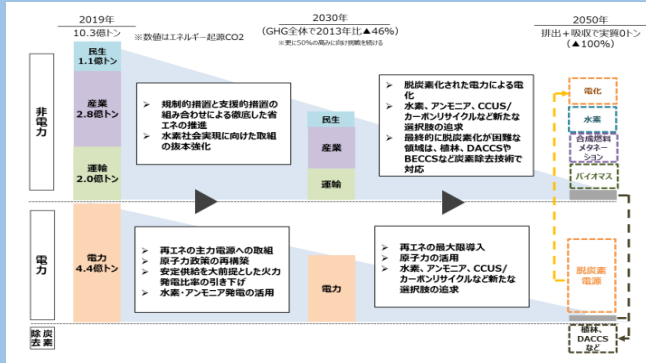


◇外的環境の変化と四日市コンビナートにおける課題・影響

国内の動き

- ① 2020年10月に菅総理による「カーボンニュートラル宣言」が行われる。
- ② 2021年4月の地球温暖化対策本部において、菅総理により、2030年度に温室効果ガスを2013年度から46%削減、さらに50%の高みに向けて、挑戦する旨の発言が行われる。
- ③ 2021年6月に「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」が示される。



四日市コンビナートにおいて想定される課題と影響

- 低炭素化・脱炭素化の進展によって、事業構造の大幅な変革が生ずる
- このままでは、四日市コンビナート地区の競争力が低下する可能性
- 立地企業の統合や事業所の統廃合等による既存企業の撤退などの恐れ

一方で、

- 産業構造そのもの大転換は、グリーントランスフォーメーションを起点した新たな産業・成長産業を生み出すチャンス
- 従来の発想を転換し、積極的に対策を行うことが、次なる大きな成長に繋がる

今が大きなチャンスでもあり、
早急に取り組まなければならない

◇目的

四日市臨海部のコンビナート地区が本市の産業基盤として **永続的に維持・発展**していくために、**カーボンニュートラル社会の実現に貢献するコンビナートを目指す**とともに、これから発生する諸課題の解決に向けて想定される **様々な投資を呼び込み**、新エネルギーの利活用、カーボンニュートラル社会に貢献する素材供給等、**新たな産業の芽吹き**を生み出す。

◇検討委員会設立趣旨

目的達成に向けて、四日市コンビナートの方向性を検討していく必要があるため、産官学の関係者からなる **委員会を設置し、今後の方向性を検討**

- 目標達成に向け、四日市市と三重県が協働し、企業や国等とも連携するとともに、専門家の知見も取り入れながら、「四日市コンビナートのカーボンニュートラル化に向けた検討委員会」を設置し、来るべきカーボンニュートラル社会に対応するための、四日市コンビナートのあるべき姿や方向性を打ち出していく。
- 必要に応じて、詳細な議論を行うためのWGを設置可能。
- また、既存の枠組みである四日市コンビナート先進化検討会においても、適宜検討を行い、その内容や意見を委員会に提供する。その他、検討委員会の委員以外の企業や団体からも意見を聴取するとともに、四日市市・三重県がこれまで連携している水素やアンモニア等の新エネルギーに関連する各種団体とも意見交換を行っていく。

